

令和2年度 総括評価表

(評定)A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内中等教育学校

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者の意見		
リーディングハイ スクール事業の 推進①  中高一貫教育の 推進	(全校レベル) 中高それぞれが相乗効果を生み出し、本校の活性化に役立てる。	<b>評価指標</b> ○「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒・保護者が80%以上。 ○「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒・保護者が80%以上。 ○「前期生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒が65%以上。 ○「中高合同のPTA活動や専門部会は活発である」と答えた保護者が80%以上。	<b>評価指標による達成度</b> ○「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒93%(+2p)・保護者92%(±0p)。 ○「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒93%(-2p)・保護者89%(-3p)。 ○「前期生と高校生の関係は良好である」と答えた生徒69%(+2p)。 ○「中高合同のPTA活動や専門部会は活発である」と答えた保護者72%(-14p)。	<b>総合評価</b>  <b>B</b>  (評定)  (所見) 学校の教育活動全般は、生徒・保護者とも評価指標を上回り、高く評価されている。今年度は、コロナ禍のため限られた学校行事しか実施できなかったにもかかわらず、豊かな教育活動の実施に関して評価指標を上回った。部活動や生徒会活動等普段の生活の中に中高の連携を深める機会が多くあり、生徒の満足度も高い。「中高合同のPTA活動や専門部会は活発である」と答えた保護者は72%と前年度より14%下回っている。PTAの専門部会を4つに再編しスタートした1年であったが、予定していた各部会の活動がコロナ禍のため中止となることが多かったためだと考えられる。	「前期生と高校生の関係は良好である」の評価は上昇している。6年間の縦割りのグループを作り、学校行事などで活動すると、他学年の生徒からいい刺激や影響があるだろう。PTA活動については、総会が開催できなかったことが保護者の低評価につながったと思われる。コロナ禍では、大人ほど状況に戸惑っていると思うのが、PTAの評価が低いことよりも生徒がどのように成長するかが大切ではないか。6年間、生徒たちが生き生きと過ごすことのできる学校づくりをいかに想像するか、中等教育学校の完全移行検討会議の果たす役割は大きいと推察する。活発な議論を期待する。	①PTA活動においては、中高が連携し、風通しのよい関係を構築しながら共通理解を図り、新組織での新たな活動を実施する。次年度の各専門部会は、1年生から4年生まで前期・後期の合同で行うので、各部の特性を生かしながら状況に応じた活動ができるようにPTA間で意思疎通を行い、課題に対しては臨機応変に対応する。  ②今年度から中等教育学校がスタートしたが、昨年度より開催している中等教育学校完全移行に向けての検討会議を今後も継続する。城ノ内の教職員全員が生徒の発達段階を踏まえた指導のあり方を共有するために、次年度の学校力向上拠点校事業を活用して、前期・後期の教員間の連携をより強める時間を計画的に設定する。
	(下位組織レベル) 前期生と高校生の良好な関係構築。  中高合同での月例運営委員会や職員会議の活性化。 PTA活動の充実。	<b>活動計画</b> ①中高職員が合同で行う会議は、年間24回以上、中等教育学校への完全移行に向けて計画準備を進める。 ②PTA役員会を必要に応じて適宜開催する。 ③中高合同の行事・作業・部活動・交流を行う機会を積極的に創設し、連携の深まる内容とする。	<b>活動計画の実施状況</b> ①中高合同の会議を31回開催し(月例運営委員会を13回、中等教育学校完全移行検討会議3回、人権・コンプライアンス研修等の職員会議15回)中高の職員で共通理解を図った。 ②中高合同PTA役員会を年3回実施し、各課題について協議した。 ③コロナ禍ではあったが、中高合同で行われた城ノ内祭や防災訓練などの学校行事と普段の部活動(弓道部や吹奏楽部、演劇部等)や生徒会活動、異年齢での学び合いを通して、より一層中高の協力と連携が深まった。			
リーディングハイ スクール事業の 推進②  確かな学力と進路観の育成	(全校レベル) 授業の充実改善に積極的に取り組み、きめ細かな進路指導を行う。	<b>評価指標</b> ○「教員は生徒の学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒・保護者・教職員が85%以上。 ○「教員はわかる授業を目指して取り組んでいる」と答えた保護者・教職員が85%以上。 ○「各種検定は学習の励みになる」と答えた生徒・保護者が80%以上。	<b>評価指標による達成度</b> ○「教員は生徒の学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒93%(+4p)、保護者89%(+2p)、教職員96%(-4p)。 ○「教員はわかる授業を目指して取り組んでいる」と答えた保護者89%(+2p)、教職員96%(-4p)。 ○「各種検定は学習の励みになる」と答えた生徒86%(+3p)、保護者90%(+3p)。	<b>総合評価</b>  <b>A</b>  (評定)  (所見) 昨年度を上回る評価となっている項目が多く、良好な結果である。ただし、達成度は高いものの評価が下がっている教職員の意識や取り組みにおいて、原因を授業評価で再点検する必要がある。各種検定の受検を学習の励みとし、取り組んでいる生徒の割合が昨年度と比べ増加している。また、外部講師を活用した取組はコロナ禍により計画回数を下回っているが、感染対策を厳に行い、生徒の学びに対する関心を高めることができた。コロナ禍において、公開授業の実施はできなかったが、相互参観授業の実施や前期課程と高校合同の教科会を開き、6年間を見通した教育課程の工夫をするなど来年度に向けた話し合いの機会をもつことができた。	評価指標としては、生徒が学習内容をどのくらい理解しているのかを評価できる指標が必要ではないか。確かな学力に繋がる因果関係のある指標であるとよい。保護者の回答する項目にも工夫が必要である。PTAとしては、すべての教職員の方は熱心に取り組んでおられると感じている。コロナ禍という厳しい状況にもかかわらず「A」評価を残していることは素晴らしい。登校できない期間などもあったと思うが、いろいろな工夫をされたのだと思う。今後には生かせる先生方の教育資産として広く共有し、今後に生かしてほしいと考える。また、徳島で活躍する卒業生を招いて、ワークショップやOB・OG質問会などができるとよいのではないだろうか。	①コロナ禍におけるペア学習、班学習の形態などを工夫し、自らが課題を見いだす主体性と多角的・多面的な視点で物事をとらえることのできる授業実践を重ねる。  ②授業評価は継続して行う。また、形成的評価を実施するなど、PDCAサイクルで学習活動を充実させ授業改善につなげる。  ③各種検定の受検の意義について生徒に話す機会を設け、積極的に実施する。  ④SDGsの視点から、生活の様々な取り組みを見直し、これからの社会に貢献していこうする意欲や関心を高めるための外部講師を招き、主体的に課題に取り組む力を生徒に身につけさせる。
	(下位組織レベル) 研究授業・授業研究会の実施。 各種検定への参加。 外部講師を活用した授業の実施。	<b>活動計画</b> ①研究授業・授業研究会を中高合同で実施する。 ②授業評価を年2回実施する。 ③各種検定の受検に意義について生徒に話す機会を設け、各種検定を積極的に実施する。 ④外部講師を活用した授業を年間10回以上実施し、効果を検討する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①主体的・対話的で深い学びを可能とする研究授業・授業研究会を前期課程と高校合同で10回行った。 ②授業評価を年2回実施した。 ③漢字検定(2回)、数学検定(2回)、英語検定(1回)を実施した。 ④体育科、総合的な学習の時間、HRの時間を中心に、外部講師を活用した授業を8回行った。			

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者の意見		
人権教育の推進	(全校レベル) すべての教育活動で人権教育の推進を図る。	<b>評価指標</b> ○「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。  ○「生徒は自分を大切に思う心や態度が育っている」「生徒は他者を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。	<b>評価指標による達成度</b> ○「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒90%(+7p)、保護者92%(+5p)、教職員88%(-4p)。  ○「生徒は自分や他者を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒85%(+8p)、保護者88%(+4p)、教職員88%(+17p)。	<b>総合評価</b> (評定) <b>B</b>  (所見) 「人権に配慮した指導が行われている」の生徒・保護者の回答が向上しているが、今後も学習面、部活動などあらゆる場面で生徒の思いに寄り添った教育が必要である。また、「生徒は自他を大切に思う態度が育っている」についても向上しているが、今後も自分で考えさせる場面を多く設け、自他を大切に思う選択ができるような生徒を育てていきたい。「教える」から「育てる」に教職員の意識改革も必要だと感じる。	「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」という質問に関して、教職員は88%と最も低い。教職員が率直に答えた結果と捉え、その要因を考えてほしい。生徒や保護者は教えられる立場であるので、質問項目に工夫が必要ではないか。 最近、女性に対する発言が問題になったことがあり、人権教育の推進を図ることは、生徒が社会に出たときに大変役に立つことだと考える。教育活動のすべてで、一人ひとりの生徒を大切にしてほしいと思う。	①人権学習で学んだことを、生徒の生きる力とするためには、日常生活の中の様々な場面で定着させていく必要がある。普段の声かけを工夫したり、掲示物、配布物等を活用することで、学んだことを生徒の生活に反映させたい。  ②人権教育で学んだことを生活の中で定着させていくためには、教職員の認識や理解を深めていく必要がある。職員研修や授業研究を積極的に実施し、共通理解のもとですべての教育活動を行っていきたい。
	(下位組織レベル) ホームルーム活動や学校行事の充実を図る。	<b>活動計画</b> ①人権学習についての研究授業、事前研究会を実施する。  ②人権意見発表会を実施する。  ③人権に関する講演会を実施する。  ④職員研修を年3回実施する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①3学年で人権学習研究授業を行った。各学年で事前研修を行い、人権課題と生徒の生活が結びつくような取組を行った。  ②新型コロナウイルスの影響で各学年ごとに、様々な個人権課題を取り上げた意見発表を行った。 ③1学年で人権講演会を実施した。その後、全体学習を行い、学んだことについて共有し深めることができた。 ④人権主事研修会後に行った校内伝達研修や中高合同の研修など、計5回の研修を行った。			
基本的生活習慣の確立と道徳性の涵養	(全校レベル) 学校は家庭と連携し、生徒の基本的生活習慣の確立を図る。	<b>評価指標</b> ○「学校は家庭と連携し、生徒の基本的生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者・教職員が75%以上。  ○「生徒は交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒・教職員が70%以上。  ○「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒・教職員が70%以上。	<b>評価指標による達成度</b> ○「学校は家庭と連携し、生徒の基本的生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者80%(-1p)、教職員96%(+17p)。  ○「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒84%(+12p)、教職員54%(-21p)。  ○「生徒は挨拶ができています」と答えた生徒67%(-7p)、教職員33%(-13p)。	<b>総合評価</b> (評定) <b>B</b>  (所見) 基本的生活習慣の確立については、生徒の意識も高まっているのが日常生活にみられることから、教員側の評価も上がったと考えられる。「生徒は挨拶ができています」の回答が、生徒・教職員ともに昨年度よりポイントが低下している。コロナの影響でマスク着用と大きな声を出さないということもあり、挨拶に対して積極的でなくなっている部分もある。友達同士の挨拶はあるものの生徒と教員や他学年との挨拶に関しては消極的な部分があり、改善していかなくてはならない。 また、交通ルールや交通マナーに関しては、生徒の評価は指標の80%を上回り、昨年度より上昇している。交通ルールやマナーを守り、安全な行動ができていますという自己評価では、生徒自身の意識が向上していると考えられる。しかし、地域の方からの報告や自動車運転者の視点からはマナーの悪さが指摘されることが少なくない。今後も、生徒側に学校周辺の道路事情や自動車運転者側からの視点など説明し、マナーの向上につなげたい。	①挨拶の大切さや交通ルールの遵守など日々の生活について、あらゆる機会を捉えて指導する。また、家庭との連携も図りながら、人格形成に努めていきたい。集団生活における規律ある行動や時間の遵守について、生徒会活動など生徒の自発的な活動から促せるよう、教職員自身が率先し、支援・指導していく。  ②服装・頭髪等の指導については、中等教育学校移行に向けて今後も全教職員が共通認識を持ち、徹底してあたる。特に生徒指導課を中心に、学年間での連携をとった指導を強化する。  ③いじめに関しては、今後もアンケートや個人面談等を活用するとともに、家庭との連携のもと早期発見・即対応を全教員で努めていきたい。	
	(下位組織レベル) 「時間厳守」の徹底。  「挨拶の励行」の徹底。  「服装頭髪」指導の徹底。 積極的ないじめ認知と対応。  交通ルールや交通マナーの遵守に向けての取組推進。	○「学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が75%以上。  ○「服装頭髪などについて校則が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。	<b>活動計画の実施状況</b> ①毎朝、交通委員による駐輪場の整理整頓を実施した。各行事を通じて社会マナーについて話をした。 ②毎朝の教職員、生徒会役員、生活委員などによるあいさつ運動を実施した。 ③教員が始業前に授業場所へ行くとともに、生活委員が2分前着席を呼びかけた。 ④学期に1回を基本とし適宜アンケート調査を実施し、いじめ等の問題の早期発見や生徒理解に努めた。 ⑤日常的に、また学年等の集会時に、頭髪服装について指導をした。 ⑥登校時、毎月1回生徒指導課の教員が校外で立哨指導を実施した。 ⑦日常的に、また学年等の集会時に、自転車の乗り方や安全についての話をした。			

令和2年度 総括評価表

(評定)A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内中等教育学校

重点課題		重点目標	評価指標と活動計画	自己評価 評価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策	
本県の重要課題を見据えた教育の推進	(全校レベル)	防災教育を徹底するとともに、主権者教育と消費者教育の推進に努める。	<p><b>評価指標</b></p> <p>○「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。</p> <p>○「学校は授業や学活等の中で、政治や選挙活動の話題を取り上げ、政治に関する興味関心を高める教育ができています」と答えた生徒・教職員が70%以上。</p> <p>○「授業や総合的な学習の時間を通して、エシカル消費への関心や消費行動の質が高まった」と答えた生徒が70%以上。</p> <p>○「教職員は時間外勤務の縮減を目指し、担当業務の精選など業務改善に取り組んでいる。」と答えた教職員が60%以上</p>	<p><b>評価指標による達成度</b></p> <p>○「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒86%(+3p)、保護者87%(+2p)、教職員92%(-4p)。</p> <p>○「学校は授業や学活の中で、政治や選挙活動の話題を取り上げ、政治に関する興味関心を高める教育ができています」と答えた生徒63%(+6p)、教職員64%(-6p)。</p> <p>○「授業や総合的な学習の時間を通して、エシカル消費への関心や消費行動の質が高まった」と答えた生徒67%(-2p)。</p> <p>○「教職員は時間外勤務の縮減を目指し、担当業務の精選など業務改善に取り組んでいる。」と答えた教職員が50%(+11p)。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p><b>B</b></p> <p>(所見)</p> <p>本年度から中高合同の防災クラブが活動を開始したことや、感染症予防をしつつ、予定通り避難訓練や炊き出し訓練を実施したこと、防災意識の高揚を十分に図ることができた。</p> <p>政治に関する興味関心を高める教育については、生徒の達成度は評価指標を下回ったが、改善しつつある。しかし、教職員の評価が下がっている原因を把握する必要がある。</p> <p>教職員の業務改善の観点からは、学校内の全ての場所と場面で新型コロナウイルス感染症対策の対応に追われ、教員の負担は増大した。しかしコロナ禍においても、生徒たちが有意義な学校生活を送ることができるよう教員間の協力体制はより強まったと感じる。</p>	<p>防災教育、主権者教育、消費者教育など教育課程に設定されていない教育も、生徒たちが社会人として生きていくうえで欠かせない教育である。それぞれの項目で意欲的に取り組んでいることは素晴らしいと思う。</p> <p>今年は、コロナパンデミックという災害対応の中でよくできているのではないかと。教職員の労働時間削減に関しては、もっとIT活用を進めてほしい。教育の本質でない部分は徹底的に効率化し、大切な部分に時間を集中して使ってほしい。教える先生に余裕がなければ、教えられる生徒にも余裕がでない。先生方には是非、業務改善に取り組んでほしい。</p> <p>また、近い将来確実にやってくる南海トラフ地震への備えは非常に大切である。防災訓練では、放送や拡声器がかかる役割を担うようにさせると、本当に必要な力が養成できるのではないかと。</p>	<p>①災害時の様々な時間帯、状況を仮定して、防災避難訓練を継続的に実施する。</p> <p>②防災士の養成や知識や技能の維持向上を図る研修を取り入れるとともに、活動報告を積極的に行い、学校全体としての防災意識の高揚を図っていく。</p> <p>③生徒に政治に参加する意義や目的を社会科の授業だけではなく、教育活動全体を通し、現実に行っているニュースなどと関連づけて、身近な問題としてとらえさせていく活動を取り入れる。</p> <p>④総合的な学習の時間の中にエシカル教育を取り入れたり、中高と連携してエシカル消費につながる実体験をさせたりすることで消費生活の意識を高めさせる。</p> <p>⑤教職員の超過勤務縮減のため、次年度は地域運動部活動推進事業に取り組み積極的に業務改善を行う。</p>
	(下位組織レベル)	防災意識の高揚に努め、防災への取組を推進する。関連授業や特別活動を通して、主権者意識と消費者意識を高める教育を充実する。	<p><b>活動計画</b></p> <p>①防災避難訓練(火災・地震・津波)を年2回実施する。</p> <p>②年2回以上、地域の方と連絡を取り共同で活動する。</p> <p>③災害時における家庭との連絡体制を、より強化する。</p> <p>④社会科の授業を中心として、模擬選挙を通して選挙制度や政治参加の意義について話し合いを行う。</p> <p>⑤エシカルな商品選択について、調べ学習や話し合い活動を行い、まとめた内容を掲示する。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>①第1回、第2回とそれぞれ経路の確認や非常事態への対応など明確な目的意識をもって実施することができた。</p> <p>②本年度は、新型コロナウイルスの感染予防のため地域の方々との合同での避難訓練や炊き出し訓練はできなかった。</p> <p>③「登下校中における災害発生時避難場所カード」、「緊急時の生徒引き渡しカード」をより分かりやすい様式に変更するとともに、継続的に使用することができている。</p> <p>④公民科の授業を中心に投票率を上げるためにどのようになれば良いか、アイデアを出すなど主権者意識を高める取り組みを行った。</p> <p>⑤総合的な学習の時間に、人権教育の視点から写真や資料、動画などを活用して、エシカル消費の基礎について学び、考えることができた。</p>			
環境教育の推進	(全校レベル)	環境教育への取組を推進し、学習の場にふさわしい環境を整える。	<p><b>評価指標</b></p> <p>○「清掃に積極的に取り組むことができている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。</p> <p>○「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が80%以上。</p>	<p><b>評価指標による達成度</b></p> <p>○「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒87%(+3p)、保護者89%(±0p)、教職員73%(-1p)。</p> <p>○「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒85%(+4p)、教職員95%(+12p)。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p><b>B</b></p> <p>(所見)</p> <p>本年度は、新型コロナウイルス感染症対策の影響もあり、節水や節電の徹底はできなかった。また、予定されていた行事が中止になるなど計画通りに行事運営をすることができなかったことは残念であったが、実施可能な行事一つ一つに対して、目標が達成できるよう様々な工夫をし、高い意識を持ち続けて取り組むことができた。</p>	<p>短い時間の中で手際よく掃除をしていると思う。音楽とともに気持ちよく掃除する習慣がついていることは素晴らしい。</p> <p>公衆衛生の切り口からきちんとした知識を生徒に習得させてほしい。細菌が活性化数値を測定する機器を使うなど精神論でない指導も必要と思う。</p> <p>また、近年マイクロプラスチックによる海洋汚染が問題になっているので、活動計画の中にこの学習を追加できるとよい。</p> <p>日頃のゴミの分別は大切で、なるべく紙を使わない取り組みを校内でしてほしい。</p>	<p>①整備委員会を中心に、ゴミの分別を徹底するとともに、感染症対策を十分に行いつつ節電、節水、リサイクル活動への意識の啓発を図る。</p> <p>②清掃時間において、主体的に清掃に取り組む指導を行うとともに、感染症対策のための消毒時間も短時間で確実にこなせるようにする。</p>
	(下位組織レベル)	清掃に積極的に取り組む。  ゴミの分別や節電・節水に取り組む。	<p><b>活動計画</b></p> <p>①日頃からゴミの分別を推進する。</p> <p>②使用水量、使用電力の推移をグラフ化して掲示し、節水・節電への意識を高める。</p> <p>③吉野川堤防清掃活動や学校周辺の清掃活動に、年2回以上取り組む。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>①日頃からのゴミの分別のみでなく、文化祭などの学校行事で出た多くのゴミも生徒同士で協力して分別に取り組めた。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症による影響で、手洗いで水量の使用や、換気をしながらの冷暖房により十分に取り組むことはできなかった。</p> <p>③1学期に予定されていた堤防清掃は、密を避けるために中止となったが、2学期には中高で場所を分散したり参加者の数を減らすなど工夫をして安全に実施できた。</p>			

令和2年度 総括評価表

(評定)A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった

徳島県立城ノ内中等教育学校

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 価 * ( )は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者の意見		
特別活動の活性化	(全校レベル) 学校行事、部活動等の特別活動を充実させ、学校全体を活性化させる。	<b>評価指標</b> ○「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 ○「生徒会・専門委員会は活発に活動している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	<b>評価指標による達成度</b> ○「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒90%(-3p)、保護者87%(-7p)、教職員77%(-23p)。 ○「部活動は活発である」と答えた生徒90%(+3p)、保護者83%(+5p)、教職員77%(+12p)。 ○「生徒会・専門委員会活動は活発に活動している」と答えた生徒87%(+2p)、保護者85%(-4p)、教職員82%(+17p)。	<b>総合評価</b> (評定) <b>A</b> (所見) 特色ある学校行事、部活動、生徒会活動等に熱心に取り組んでいるので、生徒、保護者の評価は高い。学校行事に関しては今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で制限が多い中で実施しなければならなかった。また、中止になった行事も多くあったため、教職員の評価が昨年度を下回ったのではないかと考えられる。	コロナ禍の影響を最も受けた項目と思うが、生徒と先生方が逆境に立ち向かい、一致団結して様々な創意工夫や努力をした結果が出ていると思う。しかし、教職員評価が昨年度より下がったことは気になるので、次年度の課題としてほしい。 学校では本来何をすべきか、という観点で評価軸を考えた方がよい。教職員の労働時間の観点から、やることを増やすばかりでなく、時間数を削減することも考えた方がよいのではないかと。	①各行事について、実施方法、内容等について見直しを図り、より効率的・効果的に実施できるようにする。 ②行事の際の生徒の自主的な参画について、高校とも連携し、生徒会、委員会活動を中心に更に推進する。 ③時間が限られた中で、部活動に集中して取り組めるように、放課後の時間、また練習方法について調整、工夫をする。
	(下位組織レベル) 学校行事の内容の充実を図る。 部活動を活発にする。  生徒会・専門委員会活動の充実を図る。	<b>活動計画</b> ①学校行事は生徒が主体的に運営に携われるよう実施する。 ②部活動が活性化するように広報やPRに努力する。 ③専門委員会の話し合いを昨年度より少人数で効率的に行い、これまで以上に生徒が自覚と責任をもって活動できるようにする。	<b>活動計画の実施状況</b> ①各行事で生徒会執行部や委員会の生徒が中心となって行うことができた。 ②部活動の大会等の様子をホームページに掲載し、広報活動を行うことができた。 ③生徒会執行部や各委員会では、それぞれの役割を計画的に実施し、充実した活動を行った。			
開かれた学校づくりと郷土愛を育む教育の推進	(全校レベル) ホームページの充実や学校公開の日を実施する。  地域資源を生かした多様な体験・交流活動を行う。	<b>評価指標</b> ○「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者・教職員が80%以上。 ○「学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者・教職員が80%以上。 ○「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた生徒・保護者・教職員が80%以上。 ○「夏期講座は本校の特色を理解してもらうのに役立っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	<b>評価指標による達成度</b> ○「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者81%(-4p)、教職員95%(+13p)。 ○「阿波踊りなどの地域資源を生かした多様な行事が計画されている」と答えた生徒66%、保護者68%、教職員77%。 ○今年度は新型コロナウイルスの影響により、文化祭を公開することができなかった。 ○今年度は新型コロナウイルスの影響により、夏期講座を実施することができなかった。	<b>総合評価</b> (評定) <b>B</b> (所見) 新ホームページへの移行に伴いアクセス数も増えている。行事等の迅速なアップや連絡事項の周知について教職員の相互理解・協力はできている。 今年度の文化祭は非公開になったが、ホームページやPTAの発行するうっちーな通信等で学校や生徒の様子を発信することができた。 新型コロナウイルス感染症の影響により夏期講座や水泳実習は実施できなかったものの、阿波踊り実習や外部団体との交流等が特色ある学校行事として定着している。	ホームページは情報公開の中核です。積極的に情報を提供すれば、保護者の理解や社会からの正当な評価が得られると思う。ホームページを作成するときは、見る人の用途を考えて作ってほしい。 週2回以上更新することは、外部の方に本校を理解してもらうための有効な手段なので、今後も続けて城ノ内の素晴らしさを積極的にPRしてほしい。 各部活動の活動状況や試合など、定期的な更新をしてほしい。 また、文化祭をインターネットで公開する学校もあるので、教職員の無理のない範囲で、生徒と外部の人との相互作用が生まれるような工夫を考えてはどうか。	①新ホームページへの移行も行われ順調に運用されているが、更新についても引き続き、迅速かつ内容充実をめぐる。ホームページの内容を更に深めるために、全教職員がホームページにアップできる技術を習得する。 ②文化祭の公開については、引き続き生徒の体験活動を取り入れた内容とし、学習の成果が周囲から理解してもらえるよう発表方法を工夫する。 ③新型コロナウイルス感染症の影響により、夏期講座が実施できなかった。来年度は、新しい生活様式を取り入れた中で実施できるように工夫する必要がある。
	(下位組織レベル) ホームページの更新回数を増やす。  学校公開の日や城ノ内祭の公開など学校公開の機会を充実。  地域に根ざした体験活動・行事の実施。	<b>活動計画</b> ①ホームページの更新に全ての教員が関わり、週2回以上更新する。 ②阿波踊りや水泳実習・総学発表会等地域資源を生かした多様な行事を実施する。 ③文化祭の公開は生徒の体験活動を取り入れた内容とし、学習の成果が理解してもらえるよう工夫する。 ④夏期講座を充実させる。	<b>活動計画の実施状況</b> ①ホームページへの年間アクセス数は810774回(昨年比4%増)であった[1月現在]。総アクセス数は、4月より新ホームページへの移行に伴い、年間アクセス数と同数であった。 ②新型コロナウイルス感染症の影響により、計画通り実施することができなかった行事も多い。実施できた阿波踊り実習などで積極的に活動する生徒の姿が見られた。 ③今年度の文化祭は非公開となったが、新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら、制限が多い中でも、工夫して発表を行ったり、模擬店を実施したりすることができた。 ○今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、夏期講座を実施することができなかった。			